

令和7年度 自己評価計画書 最終評価

石川県立盲学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析及び今後の取り組み
1 授業実践力の向上	他の教員の授業参観や、県教員総合研修センターの授業ビデオ等を活用し、自分の授業に活かす。	教務課	【努力指標】 他の教員の授業を参観し、授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かすことに取り組む。	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観して授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かした教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (82%)	他の教員の授業を2回以上参観した教員の割合は86%であり、参観した全ての教員が、授業改善の視点を得ることができた。また、その授業改善の視点を自分の授業に活かすことができた教員の割合は95%であった。今後は、学校研究で取り組んだ、チームでの授業づくりの成果を各教員が自らの授業で実践し、授業改善を進められるように取り組むたい。
2 専門性の向上とセンター的機能の充実	各教職員が、自身の経験に応じて自己研鑽を積み、視覚障害に関する専門性の向上を目指す。	進路・支援課	【成果指標】 各教職員がテーマを決めて研修等に取り組む、児童生徒への指導に関して、専門性向上を実感した。	専門性チェックシートを活用して研修等を行い、自分の専門性が向上したと感じた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (92%)	92%の職員が専門性が向上したと答え、チェックシートに提示された分野以外の専門性向上を目標とする教員も増えた。チェックシートを用いることで必要な項目を確認することができるため、次年度以降も継続して活用し、専門性の幅を広げていく。
3 キャリア教育の推進	キャリア教育全体計画をもとに児童生徒のキャリア発達の課題を把握し、目標や教育内容・方法、各教科の関連等を考慮しながら実践し、キャリア教育の充実を図る。	進路・支援課	【成果指標】 教職員が、全体計画をもとに児童生徒それぞれの目標を意識した授業や行事を実践した。	全体計画をもとに、児童生徒それぞれの目標を意識した授業や行事を実践した教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (81%)	実践したとする教職員の割合は、81%であった。キャリア教育の考え方や実践事例を伝え、個人の目標を各教員に周知したことが結果につながったと思われる。今後更に児童生徒の目標を意識した実践を行うとともに、キャリアパスポートを効果的に活用した取り組みを行っていく。
			【成果指標】 児童生徒が、現時点での自分の強みや弱み、興味関心等について自己理解を深め、他者に発信することができた。	自分の強みや弱み、興味関心について他者に伝えることができた児童生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (81%)	全員が「自己理解ができた。」と回答した。そのうち「自分の目標実現に向けて、他者に発信できた。」は、81%であった。教科学習や総合的な学習（探究）の時間の中で、自分の意見をまとめ、発表するなど、他者に発信する機会を設けてきた成果だと考えられる。「他者への発信に、取り組むことができなかった。」と答えた生徒が、19%いるため、目標実現のために他者に発信する機会を充実するような場面設定を学級担任中心に行うよう、積極的に呼びかける。
		【満足度指標】 保護者が、学校から提供した行事や進路に関する情報をきっかけとして家庭内で児童生徒と将来について話し合いができた。	進路行事や配付物、懇談等をきっかけとして児童生徒と将来について、家庭内で話し合いができた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C (60%)	保護者は、進路選択のために必要な情報提供を求めている。新規事業所の情報収集や、訪問に力を入れ、保護者との連絡を密にし、学校と家庭が協力して進路指導を進めていく必要がある。今後は、本人の発達段階に応じた目標を立て、その目標や進捗を保護者に伝える。また、進路だけでなく、SNSによる情報発信、わかりやすい説明資料の準備などを通して、学校で行っているキャリア教育について保護者の理解を深める。	
	キャリア教育の視点を持って、舎生が他者と協力・協働して寄宿舎行事に参加し、寄宿舎生活の充実を図る。	寄宿舎	【満足度指標】 舎生が、他舎生と協力して寄宿舎行事の準備や運営をすることができるようになったと感じる。	他舎生と協力して寄宿舎行事の準備や運営をすることができたと答えた舎生が A 4人以上 B 3人 C 2人 D 1人以下	A (4人)	自ら他舎生に手伝いを依頼する等、積極的に働きかけ、集団の一員として関わろうとする姿がみられた。今後は、こうして協力した経験を舎生自身が自覚し主体的に関わりとして捉えられるよう、振り返りの機会を設けるとともに、個々の実態を踏まえて寄宿舎行事に主体的に取り組めるよう支援していく。
4 安全・安心な学校づくり	大規模災害を想定した危機管理体制の整備、校内研修の充実を図り、教職員の危機管理や防災への意識を高める。	指導課	【成果指標】 危機管理体制の整備や防災研修会などの取り組みを通して、自身の危機管理や防災に対する意識が向上した。	危機管理体制の整備や防災研修会の受講などを通して、危機管理や防災への意識が高まったとする教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (100%)	危機管理や防災への意識が高まったとする教職員の割合は100%であった。想定外の災害の場合には何をしたらよいか困ることがわかり、自分の役割を意識したり、チームとしての連携の重要性を再確認したりすることができた。今後は、災害時、どのような立場になっても対応できるように準備しておくことが大切である。